

木協通信

第82号
発行年月日
令和4年12月1日
日田市大字東有田
字新山2776-6
日田木材協同組合
TEL24-2167



★日田木材協同組合百年を語る
一、契約の材木の荷着通知がきた時は直ちに水揚げをなすべし。止むを得ざる場合は通知の時から三日以内に水揚げを完了する事。三日以上延引する時は荷為換金利子と筏夫の日雇賃金を買主より弁償する事。但し天災其の他の事故で水揚が延引する場合は日田郡木竹商共算組合青木村支店支配人の証明書を要する

次号へ続く

★第四十五回全国育樹祭が盛大に開催されました

令和四年十一月十三日に大分市の昭和電工武道スポーツセンターにおきまして、右記の大会が開催されました。第一回育樹祭が別府市で開催されて大分県では二回目の開催となります。当センターは日田のスギ材を使い、我が国最大級の大スパン 70m で屋根を作っています。当日は全国から三千三百名が参加され盛大な式典でした。演出も素晴らしく、財前直見さんの司会は最高でした。

また、大分市出身の小学生の佐藤くららさんの歌声は抜群でした。
当組合からは瀬戸理事長、横山、野上両理事に参加していただきました。この席で森のめぐみを活かしたものづくり部門」で安心院 剛さん、武内光太さん、瀬戸理事長が表彰されました。



★第七回木造建築推進セミナーが無事終了しました

本年度で七回目を迎えた当セミナーは七月五日から開催され、十月十五日で全行程四回を終了しました。建築士をはじめ木材関係者、行政機関、当組合員等に参加いただき参加者は、延べ百七名でした。

住宅着工数が減少するなか、非住宅部門への木造化を進めるため、今後も取組を進めたいと考えています。継続は力なり。



★日田杉資料館を修繕しました

平成八年に建設され、二十六年が経過して特にコウモリが住み着いて糞の汚れ等が見られるようになりました。コウモリは1.0mの隙間があれば出入りができます。この度、隙間を無くす工事や清掃を行い綺麗になりました。コウモリは合計で八十三匹捕獲しました。十一月は当資料館を訪れるお客様が多くありました。

中学校の修学旅行生や大学生の見学、また、愛媛県の森林組合・福島県の森林組合・茨城県の県議会議員等多くの方に訪れていただきました。

いわき市森林組合長からは 平成三年の大災害の様子や林業の歴史を感じさせる巨木、植林されている樹木の樹形が揃っている理由など、現地には赴かないと分からない事がすべて参考になりました」との感想をお寄せいただきました。

★視察研修を実施します

二年間中断していましたが研修旅行を十二月九日から二泊三日で首都圏の大型木造施設を中心として、組合員十五名で視察に行つてまいります。今回は大成建設技術センターで開発されている新しい製品や、竹中工務店の大型木造施設の取組について、また、大林組が九州のスギで建設した建物等を勉強してきます。



茨城県議会議員



フラッツウッズ

研修内容は次回の木協通信で報告する予定です。

★日田市工業展が開催されました
三年に一度開催される工業展が、去る十月二十九・三十日にかけて、第十二回目が開催されました。
参加企業はCHKグループ、家具工業会、げた組合、建設業協会、管工業協同組合、電気工事業協同組合、三隈工業、アンテナサポート、TDK、林業研究部、日田林工、発明クラブ協議会の十五団体でした。
当組合からは、内装用板材や花台、木製スタンド等を展示しました。



★お知らせ

○令和4年度木づかい促進事業
木材プレセント事業 災害分に残りがあります

令和四年度の木づかい促進事業は新築五十九棟、リフォーム百四十三棟で三千九百八十万円分の木材等をプレセントしました。災害による建替は一棟分で四十五万円を支出しました。災害分は残りが六百二十五万円ありますので、災害復旧をされる方がおられましたら補助制度があることを教えてください。

○外国人技能実習制度の進捗について

厚労省が主催する専門家会議で第二段階まで進んでいます。審査基準案、試験基準等の協議が行われています。全国の製材所十社を選定し安全診断が行われています。九州からの一社として、野上製材が選定され十一月十一日に現地で専門家による審査が行われました。全木連では今年度中に施行規則の改正が行われ、製材業が認定されるよう取組を進めています。



立ち入り禁止



野上製材